

## 令和2年度に認定された体罰・暴言等、不適切な行為の分析

|        |     |         |
|--------|-----|---------|
| 体罰     | 10件 | 7人      |
| 暴言等    | 11件 | 7人      |
| 計      | 21件 | 12人(実数) |
|        |     |         |
| 不適切な行為 | 27件 | 21人(実数) |

} 計29人(実数)

## 1-① 体罰・暴言等 当事者の年代

単位:人

| 区分     | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代以上 | 合計 |
|--------|------|------|------|--------|----|
| 小学校    | 1    | 0    | 2    | 4      | 7  |
| 中学校    | 0    | 1    | 2    | 1      | 4  |
| 高等学校   | 0    | 0    | 0    | 1      | 1  |
| 特別支援学校 | 0    | 0    | 0    | 0      | 0  |
| 合計     | 1    | 1    | 4    | 6      | 12 |

## 1-② 体罰・暴言等＋不適切な行為 当事者の年代

単位:人

| 区分     | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代以上 | 合計 |
|--------|------|------|------|--------|----|
| 小学校    | 3    | 1    | 3    | 11     | 18 |
| 中学校    | 1    | 3    | 4    | 2      | 10 |
| 高等学校   | 0    | 0    | 0    | 1      | 1  |
| 特別支援学校 | 0    | 0    | 0    | 0      | 0  |
| 合計     | 4    | 4    | 7    | 14     | 29 |

## 2-① 体罰・暴言等 当事者の性別

単位:人

|        | 男性 | 女性 | 合計 |
|--------|----|----|----|
| 小学校    | 6  | 1  | 7  |
| 中学校    | 4  | 0  | 4  |
| 高等学校   | 1  | 0  | 1  |
| 特別支援学校 | 0  | 0  | 0  |
| 合計     | 11 | 1  | 12 |

## 2-② 体罰・暴言等＋不適切な行為 当事者の性別

単位:人

|        | 男性 | 女性 | 合計 |
|--------|----|----|----|
| 小学校    | 10 | 8  | 18 |
| 中学校    | 7  | 3  | 10 |
| 高等学校   | 1  | 0  | 1  |
| 特別支援学校 | 0  | 0  | 0  |
| 合計     | 18 | 11 | 29 |

## 3-① 体罰・暴言等 発生件数

単位:件

|        | 発生件数 |
|--------|------|
| 小学校    | 12   |
| 中学校    | 8    |
| 高等学校   | 1    |
| 特別支援学校 | 0    |
| 合計     | 21   |

## 3-② 体罰・暴言等＋不適切な行為 発生件数

単位:件

|        | 発生件数 |
|--------|------|
| 小学校    | 32   |
| 中学校    | 15   |
| 高等学校   | 1    |
| 特別支援学校 | 0    |
| 合計     | 48   |

## 4-① 体罰・暴言等 教員数

単位:人

|        | 当該者数A | 教職員数B(※) | 発生率(A/B) |
|--------|-------|----------|----------|
| 小学校    | 7     | 2,542    | 0.28%    |
| 中学校    | 4     | 1,396    | 0.29%    |
| 高等学校   | 1     | 131      | 0.76%    |
| 特別支援学校 | 0     | 60       | 0.00%    |
| 合計     | 12    | 4,129    | 0.29%    |

## 4-② 体罰・暴言等＋不適切な行為 教員数

単位:人

|        | 当該者数A | 教職員数B(※) | 発生率(A/B) |
|--------|-------|----------|----------|
| 小学校    | 18    | 2,542    | 0.71%    |
| 中学校    | 10    | 1,396    | 0.72%    |
| 高等学校   | 1     | 131      | 0.76%    |
| 特別支援学校 | 0     | 60       | 0.00%    |
| 合計     | 29    | 4,129    | 0.70%    |

\*教職員数は、R2.4.1現在。(管理職、養護、栄養、事務職員、臨時採用を含む。)

## 体罰・暴言等に関するアンケート結果について（報告）

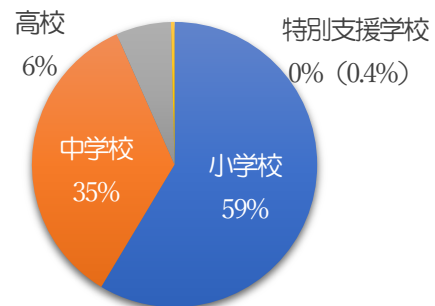
|       |                                                                      |
|-------|----------------------------------------------------------------------|
| ○目的   | 相談票のあり方や体罰・暴言等の一掃に向けて検討していくために、本市立学校に通う児童生徒の保護者にアンケートを実施し、今後の取組に生かす。 |
| ○方法   | 各学校より保護者へ安心メールで配信                                                    |
| ○対象者  | 熊本市立の小中高特別支援学校に児童生徒を持つ保護者<br>（但し、小学校1年生の保護者は除く）                      |
| ○回答期間 | 令和3年4月28日～5月14日                                                      |
| ○回答数  | 20,631                                                               |

### 設問 1

お子さんの校種を教えてください。

回答 1 (複数回答可)

|         |        |
|---------|--------|
| ・小学校    | 14,098 |
| ・中学校    | 8,362  |
| ・高校     | 1,502  |
| ・特別支援学校 | 96     |

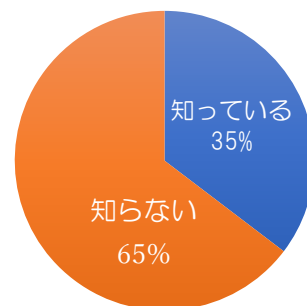


### 設問 2

体罰・暴言等による被害を受けた場合、教育委員会や学校に届け出のできる「体罰・暴言等に関する相談票」があることを知っていますか。

回答 2

|        |        |
|--------|--------|
| ・知っている | 7,293  |
| ・知らない  | 13,338 |

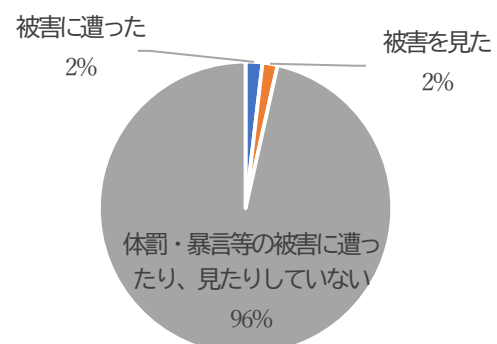


### 設問 3

昨年度の学校生活全般のことでお答えください。

回答 3

|                             |        |
|-----------------------------|--------|
| ・自分の子どもが体罰・暴言等の被害に遭った。      | 382    |
| ・他の家庭の子どもが体罰・暴言等の被害に遭うのを見た。 | 343    |
| ・体罰・暴言等の被害に遭ったり見たりしていない。    | 19,906 |



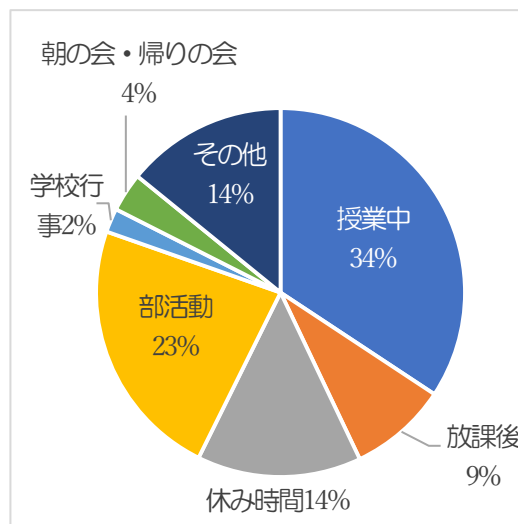
設問 4～7 設問 3 で、「自分の子どもが体罰・暴言等の被害に遭った」と回答した方の設問

設問 4

体罰・暴言等は、どんな場面で起こりましたか。(主な場面を 1 つ選んでください)

回答 4

|                    |     |
|--------------------|-----|
| ・授業中               | 131 |
| ・放課後               | 33  |
| ・休み時間              | 55  |
| ・部活動               | 88  |
| ・学校行事              | 8   |
| ・朝の会・帰りの会 (ホームルーム) | 13  |
| ・その他               | 54  |

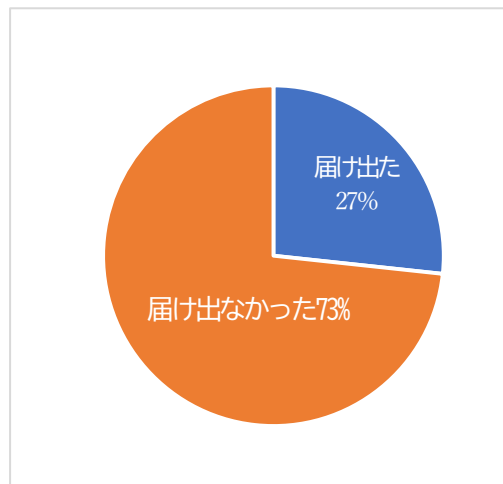


設問 5

体罰・暴言等の被害に遭ったとき、どのように対応しましたか。  
(届け出る：学校や教育委員会に「体罰・暴言等に関する相談票」を出すことなど)

回答 5

|          |     |
|----------|-----|
| ・届け出た    | 102 |
| ・届け出なかった | 280 |

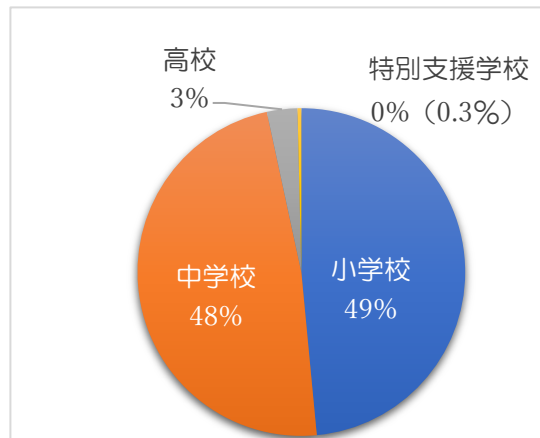


設問 6

「届け出なかった」とお答えの方。  
その時の校種を教えてください。

回答 6

|         |     |
|---------|-----|
| ・小学校    | 136 |
| ・中学校    | 135 |
| ・高校     | 8   |
| ・特別支援学校 | 1   |

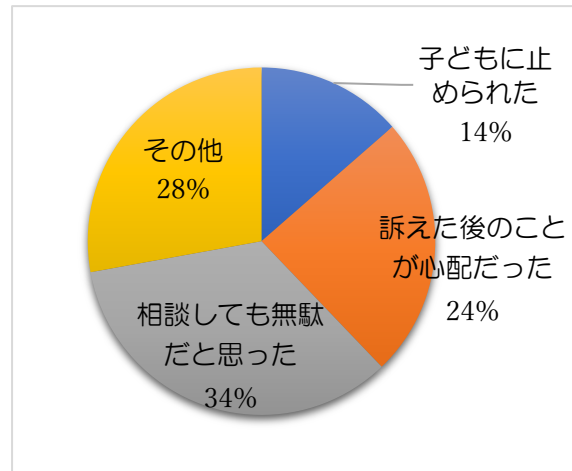


### 設問 7

届け出なかった主な理由を教えてください。

#### 回答 7

|                |    |
|----------------|----|
| ・子どもに止められた     | 38 |
| ・訴えた後のことが心配だった | 68 |
| ・相談しても無駄だと思った  | 96 |
| ・その他           | 78 |



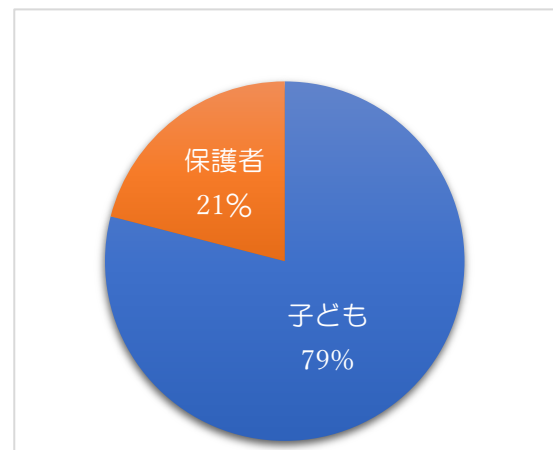
設問 8～12 設問 3 で、「他の家庭の子どもが体罰・暴言等の被害に遭うのを見た」と回答した方の設問

### 設問 8

「他の家庭の子どもが体罰・暴言等の被害に遭うのを見た」とお答えの方。見たのは誰ですか。

#### 回答 8

|              |     |
|--------------|-----|
| ・子ども         | 271 |
| ・保護者（回答者ご本人） | 72  |

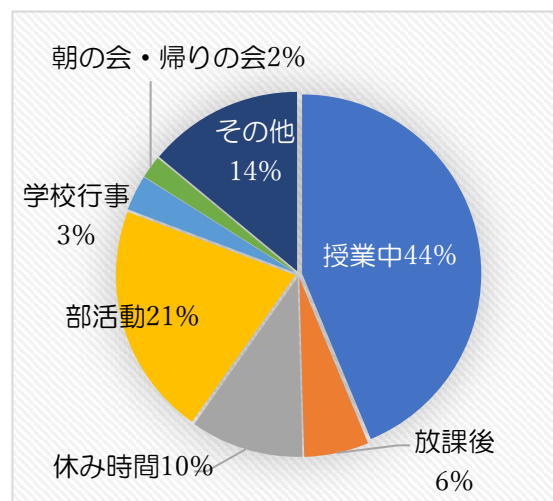


### 設問 9

その体罰・暴言等は、どんな場面で起こりましたか。（主な場面を1つ選んでください）

#### 回答 9

|                   |     |
|-------------------|-----|
| ・授業中              | 150 |
| ・放課後              | 20  |
| ・休み時間             | 35  |
| ・部活動              | 72  |
| ・学校行事             | 11  |
| ・朝の会・帰りの会（ホームルーム） | 7   |
| ・その他              | 48  |



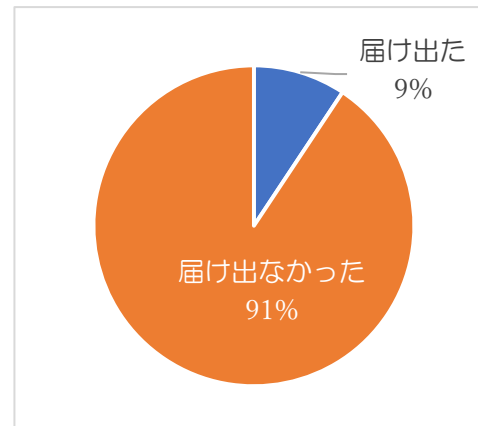
設問 10

被害に遭うのを見たとき、どのように対応しましたか。

(届け出る：学校や教育委員会に「体罰・暴言等に関する相談票」を出すことなど)

回答 10

|           |     |
|-----------|-----|
| ・ 届け出た    | 32  |
| ・ 届け出なかった | 311 |

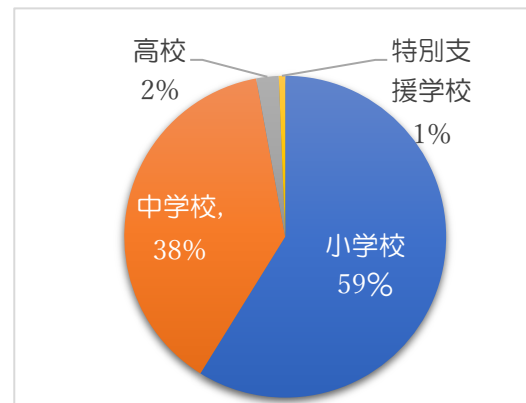


設問 11

「届け出なかった」とお答えの方。そのときの校種を教えてください。

回答 11

|          |     |
|----------|-----|
| ・ 小学校    | 183 |
| ・ 中学校    | 119 |
| ・ 高校     | 7   |
| ・ 特別支援学校 | 2   |

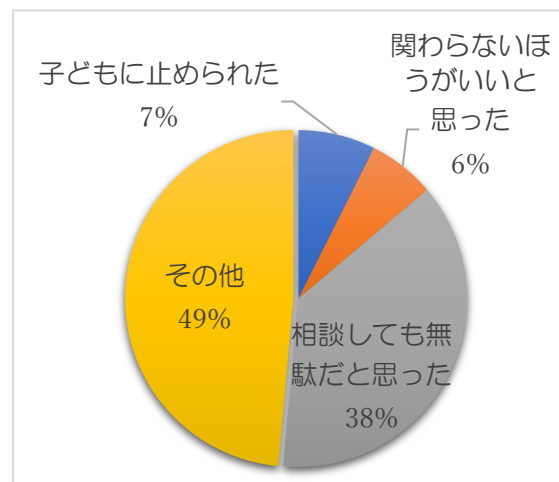


設問 12

届け出なかった主な理由を教えてください。

回答 12

|                  |     |
|------------------|-----|
| ・ 子どもに止められた      | 23  |
| ・ 関わらないほうがいいと思った | 20  |
| ・ 相談しても無駄だと思った   | 117 |
| ・ その他            | 151 |



## アンケート「その他」の記載(問7、問12)

### 問7 「自分の子どもが体罰・暴言等の被害に遭った」と回答した方 届け出なかった主な理由「その他」

少し様子を見ようと思った。

子どもから聞いたことなので何処まで事実かわかりかねた。

言葉が汚い、荒い位で暴力迄あった訳ではないし、そこまで神経質にならなくてもと思う。昔はキツイ言葉で叱られ、叩かれたり多かったし今の時代が過敏過ぎるのかなとそれはそれで心配してしまう。今の子供達は叱られ叩かれたりとほとんどないから学校、先生、親などナメてかかっているし痛みが分からないから、加減解らず何でもやりすぎてしまうのかなと思います。

相談はしたが相談票の事は言われなかった。

暴言とは違うかもしれませんが1年生に対して言う言葉づかいではないと思い校長に連絡しようとしたがそういう先生なのかと思うようにした。

学校から連絡があり、説明について納得したため。

担任に相談し解決すると思ったから。実際、解決した。

秘密主義の教育委員会なので。

どういった状況だったのか、子供だけの話しでいまいち分からなかった。

子供の話だけでは判断しにくく、また言った所で…と、過去の経験からもその後の子供への対応に影響有りそうに思えたので、敢えて言わずに子供に様子を聞いたりしてきました。なかなか、これは暴言だ！って言える内容にはいたりませんでした。確実に受けた子供は嫌な思いをして来ているのは、確かだと思います。

暴言なのか？失言なのか？判断したく直接話しました。

相手の学校の先生だったし、本校の先生は子供達に中学校、高校に行ってもある事だから、グッと我慢しなさい。との事。暴言と言いますか、その相手学校の先生に対して教育者としてその言い方はなかったんじゃないかなとそこにいた保護者全員思いました。嫌な思いました。

暴言と迄は言わないが、親にも子にも失礼だと思うことが時々あった。担任から外れて良かった。

中学校の先生と直接話した。

選択肢全部当てはまる為。

コーチからの理不尽な暴言だったので、顧問に電話で抗議した。顧問からの謝罪はあったが、本人からはない。

学校に直接行って校長先生と教頭先生に話しをしたから。

提出物を出していない子供も悪いと思ったため。

知らない。

〇〇中女子□□ 相談しても無駄だと思った。

## 問12 「他の家庭の子どもが体罰・暴言等の被害に遭うのを見た」と回答した方 届け出なかった主な理由「その他」

学校から報告の連絡が来た。

放課後デイに通ってる子への接し方にしては厳しいんだろうが、健常の子だったらと置換えたら普通  
な対応かもしれないと思った。

暴言という程ではないが、子どもの叱り方に違和感を感じた。親と先生は違うと思っている。威厳の  
ある怒り方をしなければ、ただ大声をだして怒る親と同じではいけないと思う。

許容範囲だと思えた。

子供が先生に死ねなど言った結果なので仕方ないと思ったので。

暴言にあたるのかわからなかった。

他の保護者がすでに学校に届け出ているのを知っていたから。

先生に話した。

本人のご家族が知っているの。

自分の子供が言われたわけではなかった為。

2回目あったら報告しようと思ったから。

後日、教師の度重なる暴言があった時に教頭に相談した。

どうしたらいいか分からなかった。

学校内で相談をした。

以前も相談したが、また同じことがあったことを知り、言っても無駄だと思った。

よく状況がわからないため。

担任の先生には伝えたそうです。

運動会前の体育の授業中にクラスの男の子が痛い痛いと言い引っ張られて行ったのを見ていて、凄  
く子供も心配してました。学校から帰るときには、学校に救急車と警察が来てたと話して大変な事にな  
ってるんだと思いました。先生達も運動場に全員集合していたと話したので、学校側も分かってる  
事だと届けませんでした。

そこまでしなくても良いのかなと思った。

教育委員会へ相談した後、学校長と話し合った。

よくあることだったので。本人の親が申し出ないのに、言うのはどうなのか？と思って。

他の件で届けられていた。

届けられることを知らなかった。

このアンケートの際に伝えれば良いと思った。

自校ではなかったので、先生や子どもの顔も名前も把握できなかった。誰に言えばいいのかもわから  
なかった。その場で介入しようかと思ったけれど、大人だけど怖すぎて身動きできなかった。

暴言を受けた子の保護者の方が動かれるかもしれないと思ったから。

窓口がわからなかった。

すでに学校全体で問題になっていた。

同様な事が起きたら直接学校へ訴えに行くつもりなので。

届出は出していないが教頭、他1名の先生と話をした。

体罰にあたるのか分からなかったから。

先生との関係が心配だから。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 直接見ていないから。                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 学年主任の先生も一緒にいたので適切に対応されるだろうと思った。                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 子ども本人がその先生ときちんと向き合って話したいと言ったから。                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 個人的な意見なので、認められるのか分からなかったから。                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 他校の保護者が相談したが学校側が対応されなかったと聞いた。                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 事案を後で知った。                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 既に対応されてました。                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 担任の先生に相談したから。                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 体罰を受けた子供が公になるのを嫌がった。                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 生徒を罵倒したり物を蹴ったりする声や音を確認したが現認できてない。〇〇中では頻繁にある。                                                                                                                                                                                                                                             |
| 我が子が同じめにあうかもしれないから。                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| よその子供本人に暴言を吐いているのではなく、吐いているのを自分の子供が聞いただけだから。                                                                                                                                                                                                                                             |
| 〇〇中の□□部、△△先生です。部活動中、まるでチンピラかと思うような怒鳴り声(オラァお前ら！)が10分以上続くような事が何回もあります。近隣で在宅勤務中のため、一部始終が聞こえてきます。人間性を疑うような怒鳴り方であり、とても教育者の指導ではありません。一般企業であれば、懲戒事案だと思います。過呼吸になる生徒さんもいらっしゃるそうです。間接的に聞こえるだけでも気が滅入ります。部活動生の保護者から苦情が入っているのでは？と思い、届出までは思いとどまっています。                                                  |
| 自分の子供の部活の顧問ではなかったので言っていない。                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 以前から顧問、外部コーチと言動に問題あり生徒は数名辞めてます。二年間見守ってきて指導者への敬意と発言しませんでしたでしたが顧問は秩序を乱すことばかり…外部コーチも発言時の口調が荒く生徒は怯えながら練習→数名辞めてます。先日、生徒への言動について少し意見しました。コーチからは信頼関係の中で行って来たので必要ないと言われたら辞めます！と言われたので息子最後の大会までご指導くださいませ お願いしました。言葉少なく誤解もあるコーチですが根は優しいとわかってますので今は息子の大切な時期なので中体連までは□□を知ってる指導者にぜひともきちんと指導頂きたいと思います。 |
| 聞いたのがここ最近の話なので。                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 暴言に当たるか迷った                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 対等の状況がわからないため様子を見ることにしている。                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 言えない雰囲気がある、監督は絶対という風潮と先生もボランティアだからと思うと言いつらい。                                                                                                                                                                                                                                             |

備考：アンケート原文では、〇〇は学校名、□□は部活動名、△△は氏名が記載されています。

## 体罰防止に向けた熊本市体罰等審議会委員 指摘事項概要

### 1、各種データより

- ① 体罰・暴言だけだと男性：女性は、11：1であるが、不適切な行為まで含めると、男性：女性は18：11になり女性の数も多くなってくる。力で抑え込もうとして、男性はパワーに頼っているのではないかと感じる。
- ② データを見ると、先生方は、体がまだ小さい低学年ほど、強い指導に出がちだということがわかる。体が大きくなり、自己主張もはっきりしてくる高校生には案件が少ない。全ての子どもに対して、しっかりした人権意識を持って対応していただきたい。
- ③ 保護者が部活動の指導者を守るために、「最初から体罰はない」ということですませている可能性も否定できない。「部活動での体罰は思ったよりも多くなかった」と安易に結論づけてはいけないと思う。
- ④ 「体罰・暴言等に関する相談票」があることは知らない保護者が3分の2いること。保護者アンケートの記述に「学校に相談したが、相談票のことは学校から言われなかった」とあることが気になる。被害に遭って「届け出た」件数と、被害を受けられた方から教育委員会が受理した件数に開きがある。

### 2、教職員の組織及び教育委員会の問題点

- ① 学校で起こり得る色々な問題を解決する上で、職場の環境改善が非常に大事だと思う。体罰が起きている学校では、ハラスメントや子どものいじめなど、ほかの問題も起きている可能性がある。「特定の先生が悪い」と、その先生に「子どもへの対応の仕方」とか、「自分の頭を冷静にして、一呼吸置いて落ちつかせなさい」ということで減る体罰もあるが、やはり組織を変えないと根絶はできない。個人の資質だけでどんなに頑張ってもゼロにはならない。
- ② 何か問題が起きたときに、その先生がすぐにその問題に対応できるようなマンパワーがあるとよいのではないか。
- ③ 一人の先生が指導に行き詰まる⇒子どもの問題行動ばかりを保護者に報告し、保護者も行き詰まり学校との連携が崩れる⇒医療、SSW、SC等関係機関につなぐ相談も理解を得られない⇒学級崩壊にならないようさらに厳しく指導する。担任だけが、課題を抱え込んでしまっている。
- ④ 「周囲の子どもが迷惑しているのでお子さんのここを指導してほしい」というスタンスで保護者に話をしても保護者には伝わらない。「お子さんの困っている気持ちを理解して改善していき、周囲の子どもにも伝えたい」と保護者に話さないと保護者は受け入れない。学級崩壊が起きてくる背後に個人の困りがあって、その困りに寄り添えていない先生の姿が見える。
- ⑤ 「どうせ言っても（届け出ても）無駄だ」といった保護者の不信感があると、解決の仕方が難しくなる可能性がある。そうならないためにも、届け出る仕組みを整え、教育委員会が問題点を自ら改めていく自浄作用が大切になってくる。

### 3、教職員研修の問題

- ① 子どもが授業中にじっとしていない、眠る、立ち歩く、騒ぐ、集中しないといったときに、強い言葉ではなく、どうやって対応できるかというトレーニングやスキルが必要である。子どもがどれくらい困っているか、背景を知るための子ども理解が必要である。
- ② 体罰・暴言の防止という観点から、先生がどういう言葉を使うべきか、先生と子どものコミュニケーションについて、特化した研修が必要であると思う。どういつことをトレーニングしなくてはいいかを考えることは意味がある。
- ③ 先生方が、言葉（「叱る」「褒める」「比較する」「励ます」などなど）のスキルを身につけることで、体罰・暴言・不適切な行為を回避し、児童生徒との信頼関係を深めることができるのではないか。これは、先生方の人権を守ることになる。

#### 4、体罰等審議会の機能について

- ① 懲戒の延長上にある体罰・暴言のみならず、子どもにとって有害な行為に関しては、この審議会で認定できるようにすべきである。
- ② 認定にあたって使っているフローチャートのスタートのところで、体罰・暴言等とするのではなく、「体罰・暴言、その他不適切な行為」として受ければよい。

#### 5、その他の個別の意見

- 保護者が相談したり、訴えたりしたあと、自分の子どもが嫌な思いをしないか、理不尽な目に遭ったりしないだろうかという不安もあると思う。そうした気持ちも、相談票を出すまでには至らないとか、どうせ言っても無駄であるということにつながっているのではない。  
また、学校が「その先生に厳しく指導しました」ではなくて、その学校全体の対応がどうであったのかが重要なのだと思う。その先生個人の責任として、終わらせようとしてはいけない。
- 現在は一般市民においても、体罰や犯罪など教職員に関する不祥事や問題について、非常に関心が高く、厳しい目が向けられている。  
一度信頼を無くすと、回復には大変な時間を必要とすることを学校は指導してほしい。  
ただ、管理職が伝え方を間違えると、個々の先生たちへのただのプレッシャーになってしまう可能性もある。委縮することでかえってストレスや葛藤が募り、それが限度を超えたときに子どもへの言動につながってしまうので、先生方が委縮してしまうような指導の仕方はしないでほしい。
- 診断名について、先生方はあまりこだわらない方がよいと思う。ある診断が意味する徴候を、深く、かつ、十分理解できていれば、診断名を聞けば、ある程度の対応の仕方が理解できるかもしれない。しかし、そうでない場合は、診断が単なるレッテル貼りになってしまう。そのように使われる場合が非常に多いように思う。できれば、特別な支援を求める権利が発生したとらえてほしい。
- 先生方が『子どもたちと関わる場面で使う言葉』が上手ではない、あるいは、トレーニングが十分ではないのではないかと、ということに留意する必要がある。  
精神療法のトレーニングを受ける場面で、割と初歩的なところで、相手に理由を聞くときに、『なぜ・・・？』という聞き方はしない方がいいと教えられる。患者さんが「叱られる」という気持ちになるということだけではなく、治療者の中にある『怒る』気持ちが、無意識的に表明されてしまうからだ。そのような時には、『どういう流れでそうなったの？』と質問すればよい。
- 先生方が『子どもたちと関わる場面で使う言葉』は、『教育のための技術』として、先生方にトレーニングする必要がある。我々は毎日、言葉を使っているが、用途に応じた言葉は、非常に技術的なものである。きちんとトレーニングをすることで、言葉が磨かれていく。  
この「言葉」のトレーニングは、教科学習指導のトレーニングとは別枠で考えた方がよい。これまで検討してきた体罰・暴言・不適切な行為などで問題になったのは、「学習指導」を行っているときではない。「叱る」「褒める」「家族のことを話題にする」「友だち関係を調整する」「子どもの気持ちを汲む」場面など、さまざまな場面での「些細な言葉の使い方」が契機になっているのではないかと。ちょっとした言葉の使い方、生徒との間に問題が生じ、結果、生徒の家族を巻き込んだ問題に発展しているように思われる。

- 体罰抑止の原則は、教師が体罰に至るまでの精神状態を理解すること。「熱心な」教師は、いろいろと努力している。自分の努力が報われないと感じ始めると、子どもに対する怒りの感情が湧いてくる。最初のうちは、何とか我慢しながら対応していても、「無力感」と「被害感情」が教師の中にたまっていき、それが限界に達したときに「暴力・暴言」が生まれる。
- 教師が「発達障害」、「家庭崩壊」などに関する理解が不十分であると、子どもの「困り感」が理解できない。教師にとって「困った子」は、子ども本人からすれば「困っている子」である。わざと騒いでいるわけではないのに、みんなが自分をバカにするので自己否定感がたまるという「二次障害」や、安心の場所であるはずの家庭でストレスをためているなど、「どうしようもない」事情がある。暴力は人権感覚の欠如だけが原因で生じるのではなく、教師の「主観的善意」から生じると理解することが重要。ということは、体罰防止のためには、教師に「倫理」を求めるだけでは不十分。教師という職業にある人は、誰でも「暴力」に陥る危険と隣合わせだ、という認識をもつことが大切である。子どもが理解できなければ子どもとの対話が成立しないので、教師は管理的方法しか思いつかない。管理的方法に頼ると子どもが反発する。こうなると、<ますます管理的方法に頼る→ますます反抗的になる>という悪循環にはまる。最後には「一線を越えてしまう」、つまり「暴言、暴力」に出てしまう。
- 「加害者」に対して、「暴力は人権侵害だ」と説明しても、部活動で「教師の暴力に耐えて」がんばってきた人は、「そんなことはきれいごとだ」と言う。つまり、暴力を疑うことは許されなかった。暴力が苦痛だと訴えることを禁じる空気の中で生きてきた。「自分が耐えてきた」暴力を否定することは、この人の人生を否定することになる。そうだとすれば、暴力をふるう人は暴力的環境を生きてきたので、この経験を「癒す」ことが不可欠である。
- 部活動で指導力がある方というのは、生徒指導面でも活躍をされるということがあった。生徒指導に課題がある子どものことで、担任側から、その子どもが加入している部活動の先生にも指導してほしいと言うことがあった。担任やその他の教師は、その先生のようなパワーを使い、助長する側になることがあったので、よくないと思った。
- 学級や学校は、節度は教えていかなければならないが、子どもが本音を言えるような環境をつくってほしい。教師は、子どもたちの言動を「なめられた」「軽んじられた」と感じるような意識はもたないでほしい。抑圧的な雰囲気は子どもの本音を出させない。子どもが成長する安心できる学校であるためにはよくないことだ。
- 子どもが体罰を受ければ、けしからんという方がほとんどだが、そうではない保護者がおられるのも事実。中学校になると、先生が厳しく、時に体罰も辞さないというのに、保護者から感謝されたりすることがある。保護者の手に負えないから、「うちの子を先生がしっかり指導してくれて、それで大変助かっています」ということである。保護者が、反抗期とかで手におえないでいる子が、先生の言うことは聞いて従っている。だから、厳しく指導してもらってありがたいと、部活動でも生徒指導でも、体罰を肯定する空気が一部にはある。そこが体罰・暴言の問題を難しくしていると思う。